



景全三机から権現山



慰靈の継承

宮司 額田照彦

昨年春から、新型コロナウイルス感染症が世界中に蔓延し、日本も緊急事態宣言が幾度も発令され、現在も不要不急の外出自粛等行動も制限され日常が奪われ、今迄経験したことのない不便な生活を現在も強いられています。一日も早い日常が戻る事を祈念する次第です。

さて、今年十二月八日は、大東亜戦争開戦から八十年の節目の年を迎えます。西宇和郡伊方町三机では、毎年地元三机青年団主催で、岩佐直治中佐以下九名(全員二十代)が特殊潜航艇(甲標的甲型)に乗り込みハワイ真珠湾攻撃にて戦死された、十二月八日大東亜戦争開戦の日の命日に、同町三机地区須賀公園内に建立(昭和四十一年八月)の「大東亜戦争九軍神慰霊碑」の碑前で、九軍神慰霊追悼式典を、毎年欠かさず執り行われております。

三机湾は、呉海軍工廠から近く、地形や水深が真珠湾に類似しており、また波も穏やかで舟も少なく、機密保持に適していることから、昭

御祭神数

当神社に御鎮祭申し上げております御祭神は四万九千七百二十八柱です。



須賀公園内の慰霊碑

和十五年頃から終戦まで、特殊潜航艇の訓練基地として、この地が選定され九軍神はじめ多くの若者が訓練を重ねたゆかりの地でもあります。

この慰霊碑は、昭和四十年に九軍神の御遺族が三机を訪れたのを機に、当時の瀬戸町で「広く世界の平和を呼びかける礎石」とすべく浄財を募り昭和四十一年八月に、三机湾を望む須賀公園に慰霊碑を建立し、毎年十二月八日大東亜戦争開戦の日に三机青年団主催で、遺族会会員・地元住民・海上自衛隊関係者等県内外から毎年約五十名の御参列のもと慰霊式典が欠かさず執り行われています。

主催者の青年団員は、「式典に共感し、多

くの人に参列して頂くのは本当に有難い事です。戦争で若くして英霊となられた方々の犠牲の上に現在の生活があるということをお忘れずに今後も慰霊顕彰の思いを次世代へ伝えていきたい」との思いを聞き、御遺族の高齢化、戦友会の解散が進む中、このような活動が次代を担う若い世代が中心となり、全国各地で広がりをみせ、「英霊のご遺徳」を未来永劫継承していくことを祈念する次第です。

御遺族の皆様方には、子・孫・曾孫と代々継承していただくことを御願ひ申し上げますとともに、新型コロナウイルス感染症の一日も早い終息と、御遺族・崇敬者皆様方のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

日ソ平和条約に思う

愛媛縣護國神社崇敬会

会長 愛原 章

この九月三日に、プーチン大統領は、日ソ間に平和条約が存在しない現状は「ナンセンスだ」と述べ、締結の必要性を強調したとある。

鳩山首相とブルガーニン副首相が、昭和三十一年十月十二日にモスクワで、日ソ共同宣言(十二月十二日に発効)に署名しているが、平和条約は、確かに締結していない。歴史をさかのぼって、その辺の事情を少し書いてみたい。

ソ連領クリミア半島の保養地ヤルタで、昭和二十年二月四日から十一日に、ルーズベルト(米国大統領)、チャーチル(英国大統領)、スターリン(ソ連大統領)が会談し、連合国側(米英等)の戦争政策(第二次世界大戦の戦後処理)の基本問題についての話し合いが行われ、ルーズベルトは、その四月に亡くなるのだが、日本はこの時点で、その後の運命は決まっていた。

ソ連は四月五日に、モロトフ外相がモスクワ駐在の佐藤尚武大使をクレムリンに呼び、日ソ中立条約は一年後に期限が切れるが、延長しない方針であると伝えた。

佐藤大使は、この「不延長」の申し入れは事実上の「破棄」を意味していると考え、モスクワ中央電信局から日本の外務省へその旨打電したが、電文は、受理したにも拘わらず日本の電信局へ送信されることはなかった。

そんな時期の四月七日、陛下に頼まれ鈴木貫太郎(海軍出身)内閣が誕生し、五月に独(ドイツ)が連合国に降伏し、孤立した日本が敗れるのは時間の問題となっていたが、六月二十二日の御前会議で、ソ連に米英との講和の仲介を働きかけることを決定し、日ソ中立条約の「なお一年間有効である」ことを期待し、ソ連の駐日マリク大使と会談したり、七月七日に近衛文麿氏を特使として、ソ連へ行かせることを模索していたが、ソ連はこれを拒否し、同月二十六日に、米、英、中華民国(後にソ連も参加)が発したポツダム宣言(対日共同宣言…内容は無条件降伏)により、

日本がこれを直ちに受諾すると、全てが水の泡となると考えたソ連は、八月八日に、佐藤尚武大使に対し、日ソ中立条約の一方的な破棄と宣戦布告を通知し、その数十分後にソ連軍の大部隊が、国境を越えなだれ込んできたので、手薄になっていた関東軍は、武器弾薬も少なく、苦戦を強いられて多くの戦死者を出し、日本は八月十四日に、ポツダム宣言を受諾して、翌十五日に玉音放送が全国に流れ、日本の敗戦を国民が知るようになる。

ソ連はポツダム宣言を無視して、投降した軍人等にシベリアへの抑留を命じ、強制労働等に耐え生き残った人たちの帰国が終わったのは、昭和三十一年十月の日ソ共同宣言が発効した十二月十二日以後になる。

抑留問題については、瀬島龍三氏への疑惑だが、終戦後の八月十九日、関東軍(総参謀長秦中将・作戦主任瀬島中佐・宮川船夫ハルピン総領事(その後ソ連で獄死)と、ソ連極東軍(極東ソビエト赤軍総司令官・第一極東方面軍司令官・同軍司令部軍事会議委員)による停戦協定が結ばれたが、その席上で「ソ連への国家賠償として、日本軍将兵らの労務提供認める」と、瀬島氏が申し出たと言われている。

大本営の参謀だった彼は、関東軍参謀として終戦間近の七月に満州に入ったのだが、十一年間シベリアの収容所で過ごし、収容所ではソ連による赤化教育に賛同していたとか、連合国側から極東国際軍事裁判に証人として出廷を命じられ、昭和二十一年九月十七

日に、草場辰巳中将（九月二十日に自殺）、松村知勝少将（二十五年の重労働の判決を受け昭和三十一年十二月に復員）と共にウラジオストクから空路東京へ護送され、昭和天皇の戦争責任を証言するように、ソ連側に求められたがこれは断ったとあるが、ソ連は家族の所在を突き止め、面会させるといのが条件で圧力をかけたようだ。

瀬島氏は帰国して二年後、伊藤忠商事の社員となり、同社を世界規模の総合商社に発展させて会長にまでなり、財界に大きな影響力をもち、中曽根康弘氏（元首相）のブレインとして、「昭和の参謀」と呼ばれたそうだが、シベリア抑留については何故か多くを語ることなく、平成十九年に九十五歳で亡くなった。だが、停戦協定を結ぶ際に、当時多数の日本人が住んでいた満州なので、この邦人の保護を、まずソ連側へ申し出てほしかったと思う。

今年の一月、九十歳で亡くなった作家の半藤一利氏は、『ソ連が満州に侵攻した夏』のなかで、「当時満州にいた邦人は約百五十万人で、帰国できたのが約百五十万人。残りの四十五万人はどうなったか」と書き、「抑留された将兵は五十六万二千八百人、官吏、警察官等は一千万七百人で、日本へ帰還できたのは四十七万人。約十万人が無念の死をとげた」と記している。

八十六歳になった今、人の人生は長いようで短く、あの時こうしておけばよかったと思うことが多々ある。国もそうだ。ポツダム宣

言（七月十七日から八月二日にかけてベルリン郊外のポツダムで開催され、途中の二十六日に、米国のトルーマン大統領が日本に発した、英国、中華民国の三国による共同声明）を、同月二十八日に鈴木貫太郎首相は黙殺（ノーコメントとの意味だった）するしかなかったが、素直に受諾していたら、広島や長崎に原子爆弾が落ちることもなく、ソ連は連合国側として参戦する機会を失い、満州等で何十万人もの犠牲者を出さずに済んだかもしれない。

受諾が八月十四日になったので、全てが終わった後になつたのは残念だが、ソ連交渉はだますのが悪いのではない、だまされるのが悪いのだとのこと。国はこの言葉を忘れてはならない。



ご挨拶

愛媛県遺族会

会長 関谷勝嗣



皆様、お元気ですか。

終戦記念日である八月十五日に愛媛県戦没者追悼式が護國神社で行われましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、規模を縮小しての開催となりました。また、愛媛県遺族大会は今年も中止とせざるを得ませんでした。昨年に続き、我々にとって大切な慰霊顕彰の機会が減少したことは、とても残念であります。

愛媛県内には、つい先日の九月十二日までまん延防止等重点措置が発令されてきました。ほぼ二年になる新型コロナウイルスの感染拡大を、未だ抑えることができていないのが現状です。現在、県内のワクチン接種も進んでおります。あとは、我々一人一人がもう一度基本に立ち返り、感染予防対策を徹底することが大切なのではないでしょうか。

新型コロナウイルス感染症は、政治、経済、社会、教育、文化等々、人間活動を構築するあらゆる分野に影響を及ぼしています。

特に私が危惧していることの一つに、未来の国づくりを担う若者たちの学校教育問題があります。

変異株の問題やクラスター発生の可能性等が取りざたされ、長期休校を余儀なくされたり、部活動や野外活動が禁止されたり、対面授業がされずオンライン授業がメインとなったりと、子どもたちに様々な影響を及ぼしています。子どもたちの健やかな学びの補償や心身への影響の観点から、今まで行われてきた当たり前の学校教育の機会を失うことは、人間形成に及ぼすマイナスがどれほど大きなものであろうかと危惧しています。

コロナ禍の今を戦時中に例えられることもあります。もちろんウイルスとの戦いと戦争は全く異なるものであり、同列に論じることはいけません。ただ、戦時中に学童疎開や教育制度の変革等々を経験した我々は、正しい学校教育の確保の大切さを知っています。

まずは徹底した感染予防を行い、その上で、従来の教師と生徒が、また生徒と生徒が触れ合える安定した学修機会を一刻も早く確保したいものです。

愛媛県戦没者追悼式、愛媛県遺族大会以外にも、護國神社崇敬会や愛媛県遺族会の様々な活動が制限されました。理事会、役員会は書類決裁となり、その他多くの例年行事はやむなく中止に追い込まれました。

それ故に、皆様にお目にかかる機会が激減し、寂しい思いをいたしております。一刻も

早くコロナ禍が終焉し、皆様と直接お会いでき、お話しできることを期待しています。

さて、今年は一〇二一年、終戦の一九四五年から早七十六年が経ちました。遺族の高齢化も進み、戦争を知らない世代が九割を超える時代になりました。長引く新型コロナウイルスのパンデミックにより、世界中で不安と苛立ちが渦巻いています。世界各地では未だ紛争が絶えません。しかし、どのような情勢変化があっても、英霊の顕彰と共に戦争の愚かさや平和の尊さを後世に伝えていかなければなりません。そのためにも、遺族会青年部の活性化が求められるところです。これからを担う次世代の育成が大きな課題の一つであります。今後も、後継者の育成に力を注ぐと共に、世界の恒久平和の実現に努めて参ります。

最後に英霊の安らかなることと護國神社崇敬会会員、並びに遺族会会員の皆様のご健康、ご多幸を念じつつ、ご挨拶いたします。

祈念 史料室 みゆきだより (三)

父の戦死とパプア・ニューギニア

松山市遺族会

垣生地地区会長 澤田 剛

父は私が生まれて十カ月後にニューギニアで亡くなっている。母に抱かれた私の写真は幸いにも現地に届き、喜んでいた様子は戦後

奇跡の生還を果たした伊予市の戦友から聞いている。私が父の戦死をはっきり自覚させられたのは、母が父の写真のうえに紐に付けたボタンをかざしておまじないをしていたのを目撃したときのことです。おそらく四歳だったと思う。私は好奇心旺盛で、明治十六年生まれの義理の曾祖母にあれこれ質問して困らせたのだが、日本が戦争に負けた理由はの問いに、明治大正昭和と段々だめになったからだと言ったのを記憶している。

そのうち我々三人は石手川堤防に建てられた引揚者と戦災者用のバラックに移り、標準語をしゃべる満州からの引揚者と接し、スターリンの悪口や絞首刑になった東條が本当はアメリカに逃れたはずなどのうわさ話を聞かされた。五歳のときである。やがて昭和天皇が全国巡幸のため松山に來られたので東高の前で曾祖母と二人で待った。お車が来て天皇陛下は帽子を振られたと思うが、私がポーツと立っていたのに、ばあさんは皆と一緒に万歳したので、ちょっと驚いたのだ。

小学五年生のとき、ビキニの被爆者の久保山愛吉さんが亡くなり、六百万円の補償が出た。生計のため続けていた商売も先が見通せなくなり、やむを得ず止めていた母は、祖母に出ていた年五千円の年金まで回してもらっても生活難で、差別だと国を恨んだ。

中学三年の昭和三十三年夏、各小学校区より男女各一名が選ばれ、靖國神社参拝と東京見学が行われた。急行瀬戸号東京行きで翌日東京に着き、九段会館に入った。夜に呼び出

しがあり、翌日の靖國参拝の説明があった後、市社会教育課の白石主事より皆さんに話しておきたいことがあります、次のような話があった。「皆さんはお父さんが死ぬとき天皇陛下万歳と叫んだと聞かされていませんか？ 私は多くの部下を死なせましたが、聞いたことはありませんでした。大抵は『お母さん』で、奥さんや子どもの名を言う人もいました」と。一緒に行った中には沖縄で消滅した松山二十二連隊の連隊旗手・本田少尉の娘さんの洋子さんもあり、当然白石主事も知っていたはず。建前と実際は違うと知らされた夜だった。靖國参拝の後、関谷会長のお父上の勝利代議士のお世話で、国会見学をさせていただくなどして無事帰着した。

その後運良く六割給付形特別奨学金制度の新設により進学でき、高校教員になったのだが、世界史の教育に夢中で、父の戦死には無関心だった。父の墓には昭和十九年二月十五日東部ニューギニア・カプトモにて戦死とあるだけ。昭和五十五年頃、叔父から伊予市在住の父の戦友に会っておけと連絡があり、外国製の地図持参でお目にかかったものの、野戦病院所属だったこと、父には君が残ったが大半は何も残さずだったの二点しか話してもらえず、また放置状態に。

平成十八年、徳島の日亜化学（青色発光ダイオード開発で有名）副社長の勝瀬章市氏（故人）という熱血漢とお遍路さんを通じてたまたま連絡がとれ、ヘリをチャーターしてカプトモに乗り込み、父の遺骨を捜せ、カ

プトモについては十八軍作戦参謀だった堀江正夫少佐（当時）の所にガリ版刷りの等高線のない二十万分の一の地図があるとのこと。早速元陸将で参議院議員も務められた堀江先生のところに問い合わせると、カプトモは現在のガプトモンだろうが、いきなり乗り込んでもむだゆえ遺族会主催の慰霊巡拝に加えてもらってニューギニアがいかなる所かをまず知れとの御教示を頂戴。直ちに手続きをしてこの秋懐かしの九段会館に集合、靖國神社昇殿参拝を経て初めて成田よりニューギニア慰霊巡拝に出発した。コースは父の死後戦友らがたどった戦跡だったが、各地で慰霊行事と見学を行い、ウエワクにある各県慰霊碑にも献花できて帰国した。収穫は日本遺族会が収集してくれた情報と現地見学で、父の死の状況がわかってきたことであった。十一年経った二〇一七年二月には父らが敗走し始め力尽きたガプトモンの急峻な断崖までを小型機で確認させてもらった。ここはまだ遺骨未収集のままと聞かされた。

旧従軍経験者は九十五歳、戦死者の遺児もすでに七十七歳を超えて高齢化した現在、ますますべきは記憶している父母の話をまとめて子孫に伝える形にしておき、家に残った遺品や資料に関しては、崇敬会会長の愛原さんの御尽力で護國神社の御幸殿に併設された「祈念史料室みゆき」に相談してみる。ことだろう。とにかく戦死者の薄れ行く記憶をできるうちに残すことが、我々遺児の務めだと思ふ。

『戦友団体等による慰霊祭』

令和三年

六月 二日 愛媛県殉職消防職団員慰霊祭
八月 十日 歩兵第二十二聯隊慰霊祭

〔奉納者並びに寄贈図書〕

一、「倫風」

松山市緑町

一般社団法人実践倫理宏正会

松山支部 森川いづみ様

一、「ニューヨークの神道アイコン」

神奈川県高座郡寒川町宮山

寒川神社様

一、「平成から令和へ」

東京都目黒区青葉台

日本会議事務局様

令和三年（四月）

春季慰霊大祭奉仕者

（敬称略）

献茶奉仕者（茶道裏千家淡交会松山支部）

幹事長 松山市道後一万 戸田宗悦

前幹事長 松山市中西外 木村宗悦

献花奉仕者（愛媛県華道会）

聴春流 松山市勝山町 大井緑

聴春流 松山市祝谷 福田倫子

万葉苑だより(六)

愛媛万葉苑保存会

常任理事 藤原 茂

愛媛万葉苑学(其の二)

⑰県内にある万葉歌碑は：「にぎたつに船せむと」(愛媛万葉苑・松山市三津被川・古三津・梅田・同勝岡) 皇祖神の神の命の(松山市道後温泉)「君が行き日長くなりぬ」(松山市姫原)「さし鍋に湯沸かせ子供」(西条市下島山)「妻ごもる矢野の神山」(八幡浜市清水町)その他西予市城川町の自然公園万葉の道には五十一基の万葉歌碑が建っている。

⑱額田王とは：額田姫王、鏡王のむすめ、初め大海人皇子(後の天武天皇)に迎えられ十市皇女を産み、後天智天皇に仕える。壬申の乱以後は再び天智天皇の側近に侍した万葉第一期の代表的宮廷歌人である。

⑲郷土植物園の開設の目的と功労者は：戦後多数の英霊が合祀されると、当時の土居宮司が慰霊のため英霊の郷土の植物を植樹することを計画され昭和二十八年十月県下全市町村から三百二十余种の植物を収集し郷土植物園が開設された。功績者は当時の土居宮司とそれを支援された八木繁一先生。

⑳にぎたつ歌碑が建設されたのは何時か：昭和四十二年十一月、明治百年記念に愛媛師友会ひの会会長竹葉秀雄先生の発起で、小学生の1円募金などをもとに建立された。碑の文字は「元暦校本」から採り刻字・製作は松山

市石手の名工大谷伊三郎氏(大谷石材店代表)副碑の揮毫は書家の村上寂山先生。

㉑にぎたつの場所はどこか：「にぎたつ」の比定は諸説あるが定説はない。三津説が強いが、御幸寺山麓、吉田浜、和氣・堀江、重信川河口、今治桜井、西条の説もある。苑内に「にぎたつの歌碑」が建立されているが「にぎたつ比定地」を意図しているものではない。

㉒愛媛万葉苑の創立は：にぎたつの碑が建つと、郷土植物園にはすでに沢山の植物が収集されており、歌碑募金の余剰金もあり竹葉会長の構想が整った。

㉓愛媛万葉苑発足の母体となった師友会とは昭和二十四年東洋思想家の安岡正篤先生の呼びかけで設立された会である。会名の由来は吉田松陰の土規七則の中の「徳を成し、材を達するには師恩友益多きに居る」である。愛媛県師友会ひの会は昭和三十二年安岡先生の高弟竹葉秀雄先生(当時県教育委員長)によつて発足した。ただしこの会には「ひの会」が重なっている。これは竹葉会長が「太陽のように温かで輝かしい日本の心の本質を知らしめたい」という意図が示されている。

しかし、安岡先生亡き後は 関西師友協会を中心に活動していたが、竹葉先生後継者の近藤美佐子さん亡き後は中断している。

㉔万葉苑が開設されたのは何時か：郷土植物園ににぎたつ碑が建つと、竹葉先生等の発案で万葉植物を集めて万葉苑の構想が整い、昭和四十三年五月五日開苑となった。

㉕万葉苑開設の目的は：愛媛県師友会ひの会

会長竹葉秀雄先生は、郷土植物園の護国の霊の供養と共に「西洋の個人主義機械物質文明から生じた公害と闘争の荒んだ現代。神と人と自然との融和一体。神を敬い大地に感謝し、人を懐かしみ、ささやかな路傍の一草にも心を寄せて愛おしむ」この万葉の心を今の世のものにしたい。日本の心の故郷をここに作りたいと願つてのことである。

㉖万葉苑開設の功労者は：愛媛県師友会ひの会会長竹葉秀雄、八木繁一夫妻、土居宮司、近藤美佐子(愛媛県師友会ひの会会員)。

㉗愛媛万葉祭について：万葉苑開設の五月五日と、にぎたつ歌碑建立の十一月二十三日を記念して毎年挙行されてきたが、最近は五月五日の開催となった。例年約百名近い参加者を迎えている。行事は神事・献吟・献舞・献杖術)のほか記念講演、直会が行われている。

㉘愛媛万葉苑保存会とは：愛媛万葉苑開設時苑の管理は愛媛県師友会や愛媛VYS会員の奉仕に頼っていたが、財界有志によつて支援組織として設立された。現在は十五企業と有志で構成されており、会費で運用されている。初代会長は伊予鉄道(株)会長新野進一郎氏、以降南海放送、井関、白方興業などの役員が歴任されてきた。現在、副会長は額田照彦護國神社宮司である。

㉙万葉苑にある植物の種類は凡そ何種か：初めは百五十種類くらい蒐集していたが、近年苑が縮小されてからは凡そ百種類。

㉚愛媛万葉苑の特色ある植物は：アベタチバ

(クネンボ)、ムラサキ、ジュンサイ、カタクリは貴重種である。また、入口のフジ棚は県下で有名な西条市禎祥寺観音堂・松山市庚申庵・大洲市大洲高校の藤樹ゆかりのフジで構成している。

③1愛媛万葉苑奉仕作業は：万葉苑の維持保作業は当初は師友会会員、VYS会員の有志に頼っていたが、最近はずべて一般の有志に依存している。奉仕は毎月第二日曜の午前中。早い人は八時頃から自由参加。午前中作業を終えると保存会提供の昼食をしながらミニ万葉講座で終わっている。ミニ万葉講座は「B4」一枚にその月の植物とそれを詠んだ万葉歌の解説を資料で実施。平成三年から二〇年十月で三百回継続してきた。

③2愛媛縣護國神社の創建は：明治三十二年私祭招魂社」として。昭和十四年現在地に遷座社号を「愛媛縣護國神社」と改称。昭和二〇年戦災により焼失。昭和三〇年社殿復興完成。平成二十八年御幸殿竣工。平成三〇年御幸殿に祈念史料室開設。③3護國神社の御祭神は：明治戊辰の役から大東亜戦争までの国

難に殉じられた県内出身の英霊。公務殉職者および郷土の産業・文化功労者等。総数は四万九千七百二十八柱。
③4護國神社境内の慰霊碑・塔・像は：慰霊碑・塔十七基、その他八基総計二十五基。

昨年より会長に就任され保存会の運営発展に尽力いただきました秋川啓人氏（南海放送役員）が急逝されました。ここに哀悼の意をささげ、心よりご冥福をお祈りいたします。

正式参拝

☆令和三年三月二十六日
愛媛県遺族会理事会
会長 関谷勝嗣 様
計十五名

☆令和三年五月五日
愛媛万葉苑保存会
計六名

☆令和三年五月八日
愛媛シベリアを語る会
会長 松木敏夫 様
計七名

☆令和三年五月二十七日
晴朗会
代表 安永教一 様
計五名

☆令和三年六月十三日
ボイスアウト・神道宗教章
授与
計十名

☆令和三年七月六日
松山市遺族会役員会
会長 西村利明 様
計二十七名

☆令和三年八月六日
愛媛県瓦工事業組合
理事長 菊池陽一郎 様
計二十五名

☆令和三年八月十五日
伊豫豆比古命神社
宮司 長曾我部昭一郎 様
計九名

☆令和三年八月十九日
福岡縣護國神社
宮司 田村豊彦 様
計二名

☆令和三年九月二十一日
和プロジェクトT A I S H I
奉納揮毫
書道家 林 龍峯 様
松山北高等学校書道部
部長 中村華凜 様
計二十五名



愛媛縣護國神社英靈顕彰会 入会と継続のご案内

平成26年11月の設立以来、ご理解ご協力を賜り感謝申し上げます。
今後も英靈のご遺徳を顕彰し後世に伝えてゆくために、愛媛縣護國
神社英靈顕彰会へのご入会と継続のご協力をお願い申し上げます。
お問い合わせは、下記迄お願い致します。

愛媛縣護國神社 英靈顕彰会事務局 TEL (089) 925-2353

英靈顕彰会会員の特典

各特典	正会員	賛助会員	特別会員	備 考
会費(年額)	3,000円以上	10,000円以上	100,000円以上	
会員対象	個人	個人・団体	個人・団体	
神 札	御 守	紙 札	木 札(小)	年1回発送
社 報	年2回発送	年2回発送	年2回発送	
春秋大祭案内	×	×	○	一般来賓案内
顕彰石彫	×	×	○	

御祈禱(お祓い)の

御案内

当社では各種祈願を随時お受けしております。

時間等は社務所へお問い合わせ下さい。

初宮詣
七五三詣
厄除け
交通安全
家内安全
合格祈願
社運隆昌
新年特別祈禱
その他